1Kp-6　和室の空間構成が室内雰囲気に及ぼす影響に関する実験的検討

○國嶋　道子*　竹原　広実**
(*京都女大短大、**京都ノートルダム女大)

【目的】書院や違い棚などは伝統的な和室の空間構成要素として挙げられるが、近年これらをもつ和室が新たに設けられることは珍しくなってきた。一方、新しい要素を加味した和室もみられるようになってきた。本研究では、和室の空間構成要素の視覚的効果を明かにすることを目的として実験的検討を行った。

【方法】空間構成要素の変化要因として床の間の有無、壁面・襖、欄間の有無、1帖畳・半帖縁無畳、室周囲の板敷部分の有無、工法を取り上げた。これらの構成要素の異なる組合せ26通りを、和室の1/10縮尺模型(10帖大)で作成し、その写真を撮影しパソコンに取り込み画像処理を行って評価対象とした。CRT画面に呈示した評価対象を、21の形容詞対について7段階SD法により被験者(学生・主婦)に評価させた。得られたデータをもとに平均値プロフィールによる比較、因子分析を行った。

【結果】再現性の得られた被験者のデータをもとに分析を行った。縁無し半帖畳は、縁有1帖畳より広さ感が得られ、現代的な印象を与える。床の間があり真壁工法で襖が多いほど伝統的な印象を与える。また室の周りに板敷き部分がある・欄間があると広く感じられる。壁面が多いと評価が悪くなる。これらの空間構成要素は、<現代性><活動性>に大きな関わりをもつことが明らかになった。